

2021 年度（令和 3 年度）  
小林市地域学校協働活動推進事業  
（ K S S V C ）

# 実 践 記 録 集



小林市教育委員会

こばやしスクールサポートボランティアセンター

## はじめに

平成20年、小林市の地域学校協働活動推進事業（当時は学校支援地域本部事業）がモデル校を指定して始まりました。その後、21校すべてに学校運営協議会ができ、コミュニティースクールの機能を生かしての取組が、各学校で今日まで続いています。

今年度の実践記録集では、コロナ禍が続く中でも「地域人材との連携・協働した多様な取組を途絶えさせない」ため、様々な工夫をして実施した事例が多数報告されています。人々が繋がるのが難しくなっている中、活動内容を精選し、感染対策を徹底して実施していただいた学校と地域の皆様の御努力に心より敬意を表し、感謝申し上げます。

コロナ以前の状態に戻るには時間がかかるでしょう。それでも、様々な制約がある中で実施できたという事実は、今後の活動に大きな効果をもたらすものと考えています。児童生徒を分散しての実施や外部講師のリモート授業、話し合いの場面をタブレット端末で補うなど、ソーシャルディスタンスに配慮した取組が昨年度から続いています。今後も、学校の創意工夫を生かして、コロナ禍での地域学校協働活動の在り方を考えていただければと思います。

さて、市内の小・中学校で実施される地域学校協働活動は、年間6千件以上、参加者は延べ3万人に上ります。この数字だけを見ると、地域や学校の中に活動が定着していると言えます。しかし、それはゴールではありません。少子高齢化の影響が深刻な市町村の一つとして、活動を通して子どもたちの学びや成長を支え、地域住民の生きがいに貢献し、地域と学校がパートナーとして「学校を核とした地域づくり」を目指すことが真のゴールへの道です。だからこそ、地域が学校を支援し学校が地域に協力するという「双方向の関係」から、共通の目的をもった個人や団体が任意につながる「緩やかなネットワーク」が重要になってくると考えています。

住みやすく持続可能な社会をどう創っていくのか、そのような社会を担う子どもたちをどう育てるのか、学校と子どもたちに関わる全ての人々が話し合い、連携し、新たな活動を生み出していく、これがネットワークの役割です。学校運営協議会委員でもある地域コーディネーターの皆さんや、各校区のまちづくり協議会を始め、さまざまな組織・団体・企業と繋がる中で、地域の特色を生かした活動を推進していくことが、これからの小林市には求められています。

本実践記録集は、小・中学校21校の協力を得て作成されました。この中には、各校の特色ある取組や成果と課題、今後の方向性等が掲載されています。教職員や保護者のみならず、地域の皆様にも手に取っていただき、本市の取組に御理解と御支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

最後に、本冊子の編集にあたり、御協力いただきました関係各位に対して、厚くお礼を申し上げますとともに、各学校において積極的に活用されることを心より願っています。

令和4年3月

小林市教育委員会

教育長 中屋敷 史生

## 目 次

はじめに

### 1 実践報告

小 林 小	.....	P 1
南 小	.....	P 2
細 野 小	.....	P 3
西小林小	.....	P 4
東 方 小	.....	P 5
永久津小	.....	P 6
三 松 小	.....	P 7
幸ヶ丘小	.....	P 8
須 木 小	.....	P 9
野 尻 小	.....	P10
栗 須 小	.....	P11
紙 屋 小	.....	P12
小 林 中	.....	P13
細 野 中	.....	P14
西小林中	.....	P15
永久津中	.....	P16
東 方 中	.....	P17
三 松 中	.....	P18
須 木 中	.....	P19
野 尻 中	.....	P20
紙 屋 中	.....	P21

### 2 資 料

地域学校協働活動等取材一覧（分野別）	P22
--------------------	-----

## 【 小林小学校 】

### 1 実施状況

<ul style="list-style-type: none"><li>○ 読み聞かせ（通年）</li><li>○ 薬物乱用防止教室（7月）</li><li>○ 図書館見学（11月）</li><li>○ 非行防止教室（12月）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>○ 立番指導（通年）</li><li>○ 兵児踊りの指導（7月～9月）</li><li>○ 福祉体験活動（11月、12月）</li><li>○ 手話体験（1月）</li></ul>
ボランティア登録者数（50）人 年間参加者実数（1921）人 見込も含む	【連携・協働している機関】 ○ 読み聞かせ「くすの木文庫」 ○ 小林市社会福祉協議会

### 2 特色ある取組の紹介

#### 1 「福祉体験活動」

##### ○ 活動内容

本校では、総合的な学習の時間「障がいについて考えよう（4年生対象）」に、障がいのある方々に対する理解を深めるための学習活動を展開している。体験的な活動を通して、「知的、視覚、肢体不自由」などの様々な障がいに関する理解を深めることで、障がいのある方々の立場に立って考え、どのような行動をとればよいかについて学ぶ姿を目指している。

また、「手話講座（3・5年生対象）」では、手話について学ぶことを通して、手話が聴覚障がいのある人にとって必要なコミュニケーションの一つであることを理解し、共に生活していこうとする態度を育てることを目指している。



車いす体験（4年）



福祉についての講話（4年）



手話についての講話（3年）

##### ○ 参加者の声

- ・ 障がいのある人にとっては、歩くことや字を書くことなどは難しいことを知りました。心のバリアフリーという言葉も初めて知りました。もし、障がいがある人に出会ったら、手助けをしたいです。（4年児童）
- ・ 今日、手話について学習しました。手話を使って自己紹介をすることができました。自分の名前も手話で表すことができました。良かったです。（3年児童）

### 3 取組の成果と課題（○:成果 ●:課題）

- 様々な障がいのある方々との違いを感じながらも、同じ人間として力強く生きていくことのすばらしさを感じることができ、共に生きていくことの大切さについて学んだり、社会的視野を広げたりすることができた。
- 他の教科・領域においても関連させながら、継続的に指導を行う必要がある。

### 4 課題解決の方策、今後の方向性など

- 福祉に関する言葉（「障がい者」等）についての事前指導を確実にを行い、事後指導を継続的に行う必要がある。
- 学年の発達段階に合わせて、系統的に指導を重ねていく必要がある。
- 外部講師との打ち合わせをしっかりと行い、関連的な指導を見通した学習内容の検討を行う。

1 実施状況 ◎ 今年度初めて実施した活動

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 読み聞かせ(通年)</li> <li>○ 茶道クラブ(通年)</li> <li>◎ 炬火リレー(4月)</li> <li>○ 3H<sub>2</sub>(ホテル)学習3年(7月)</li> <li>○ スーパー見学3年(9月)</li> <li>○ 消防署見学3年(3年)</li> <li>○ 食育教室6年(11月)</li> <li>○ 警察署見学3年(12月)</li> <li>○ 議場見学6年(12月)</li> <li>○ 保育園訪問5年(12月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 朝の見守り活動(通年)</li> <li>○ 学習支援ボランティア(通年)</li> <li>○ 史跡めぐり6年(5月)</li> <li>◎ フラワーボランティア花壇整備(8・11月)</li> <li>○ 南小祭り全学年(10月)</li> <li>○ 清掃工場見学4年(11月)</li> <li>○ 市立図書館見学2年(11月)</li> <li>○ 人権教室全学年(12月)</li> <li>○ 租税教室6年(12月)</li> </ul>
<p>ボランティア登録者数(21)人 年間参加者実数(134)人 見込も含む</p>	<p>【連携・協働している機関】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ まちづくり協議会</li> <li>○ 読み聞かせサークル「たんぽぽ」</li> <li>○ 人権擁護委員会</li> </ul>

2 特色ある取組の紹介

1 活動名 南小まつり  
2 実施日 令和3年10月24日(日)  
3 活動紹介  
講師の先生を招いて、各学年、以下のような体験活動を行いました。

1年生	ちぎり絵	4年生	盆景、和楽器体験
2年生	絵手紙、エコバッグ作り	5年生	シンガーソングライター 大野勇太さんによる
3年生	お茶体験、しおり作り	6年生	音楽演奏&キャリア講話





4 参加者の声  
昨年度はコロナのため実施できなかったが、今年度は実施できよかった。子供達はいきいきとした表情で取り組んでおり、毎年実施できたらよいと感じた。講師の先生も子供達とのふれあいを楽しんでいるようだった。(職員の感想)

3 取組の成果と課題 (○:成果 ●:課題)

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ボランティアや地域の方々のおかげで、学習や体験活動の充実、環境整備につながっており、大変ありがたい。</li> <li>● 新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため内容変更が必要となるがあった。</li> </ul>
---

4 課題解決の方策、今後の方向性など

<p>学習支援ボランティアを初め、児童の教育活動に地域のボランティアの方々との協力は不可欠である。感染症対策を検討しながら、これからも、学校と地域互いの教育的ニーズをもとに、学校と地域ボランティアとの連携を密にして、望ましい教育実践につないでいきたい。</p>
--

## 【 細野小学校 】

### 1 実施状況

- ママーズによる読み聞かせ(通年) ○ 登下校の見守り(通年) ○ 心肺蘇生法講習(5月)
- 交通安全教室(4月) 奉仕作業(5月) ○ 風水害避難訓練(6月) ○ 不審者避難訓練(8月)
- そばの種まき(9月) ○ 奉仕作業(9月) ○ 携帯スマホ安全教室(7月) ○ 味覚の授業(10月)
- 鑑賞教室(10月) ○ 消防署見学(11月) ○ いのちの授業(11月) ○ そば収穫(11月)
- 史跡巡り(11月) ○ 火災避難訓練(11月) ○ いのちの授業(12月) ○ 給食感謝集会(11月)
- 立志の集い(12月) ○ 小学生のハローワーク(1月) ○ 租税教室(10月)

ボランティア登録者数(25)人

年間参加者実数(1753)人 見込も含む

【連携・協働している機関】

- 細野まちづくり協議会 ○ JA青年部
- 読み聞かせサークル「ママーズ」

### 2 特色ある取組の紹介

#### ○ 米作り

例年、細野小学校では5年生児童が米作り体験を行っており、今年度も JA 青年部や細野まちづくり協議会の方々にご協力をいただき、田植え、草ぬき、稲刈りを行った。



収穫したもち米は、参観日に販売を行うとともに、そのもち米を使って作ったもちが5年生児童に配付された。

### 3 取組の成果と課題 (○:成果 ●:課題)

- 米作り体験を通して、作物を作る大変さや、育てることの難しさ、そして収穫の喜びなどを味わうことができた。
- どの行事に対しても地域の方々が積極的に支援してくださるので、学校教育環境の充実につながった。
- コロナウイルス感染症の流行のため、中止になったり規模縮小になったりする行事もあったが、様々なご協力のもと、児童が楽しめる行事を実施することができた。

### 4 課題解決の方策、今後の方向性など

- 地域の人々の支えで学校の環境が改善されているので、今後も協力していただけるように、連絡や相談を密にとっていきたい。
- 今年度できなかった行事の実施方法などをしっかりと引き継いで、来年度からは例年通り実施できるようにしていきたい。

1 実施状況

- 登下校安全指導(通年) ○ 読み聞かせ(通年) ○ 太鼓クラブ(通年)
- 茶飲ん場・放課後子ども教室(通年) ○ 2年まちたんけん(5、2月) ○ 4年清掃工場(5月)
- 3年ホテル学習(5月) ○ 5・6年田植え(6月) ○ 1年虫探し(7月) ○ 3年・5年手話講座(7月)
- 3年施設巡り(7月) ○ 6年市庁舎見学・議会傍聴(9月) ○ 3年味覚の授業(10月)
- 稲刈り、脱穀(10、11月) ○ 3年、4年地域人材活用(11月) ○ 5年お米学習発表会(11月)
- 3年消防署見学(11月) ○ 6年持久走指導(11月) ○ 2年市立図書館(12月)

ボランティア登録者数(※登録なし)人  
年間参加者実数(120)人

【連携・協働している機関】  
にっこばまちづくり協議会

2 特色ある取組の紹介

① 「われら西小林探検隊！～西小林的すごい『もの・こと・人』を見つけよう」

3年生の総合的な学習の時間では、西小林的自然環境のすばらしさや昔から大切に守られているものがあることをテーマに学習を展開している。この学習では、これからの自分の在り方や生き方を考えるキャリア教育の観点から、地域の人財(保護者)にゲストティーチャーをお願いし、仕事への向き合い方や思い、今後の目標等について話をしていただいた。子ども達は身近な方々からの話を直接聞くことができ、自分の将来の夢や職業等について大いに参考になったようである。



② 茶飲ん場・放課後子ども教室

本校では、毎月第1・3水曜日の放課後に、地域のみなさんと子どもたちが触れあう「茶飲ん場・放課後子ども教室」が開催されている。今年度もにっこばまちづくり協議会のご協力により、伝統的な昔のおもちゃで遊んだり、スライムなどの物づくり体験をしたりしながら、楽しく活動を行っている。毎回、興味・関心を高めるようなプログラムが工夫されており、子どもたちは放課後に地域の人と触れ合う楽しさを感じることができている。

③ 陸上教室

小林高校の男子駅伝部監督の上原将平先生と駅伝部2名の生徒を講師に招いて、3年生以上の児童に持久走の指導を行った。校内の持久走大会前に、走り方の参考になる指導をしていただき、子どもたちは、目を輝かせながら参加していた。



同じペースで走る方が、疲れが少ないということがよく分かって、とても参考になりました。

3 取組の成果と課題 (○:成果 ●:課題)

- 今年度は初めての取組として、小林高等学校との連携を図った体育科指導を計画した。全国大会等にも数多く出場し、実績を残している地域の学校との連携を図ることで、児童の意欲向上を図るとともに、ふるさと・地域のよさを再確認することができた。
- 教科学習やキャリア教育を目的とした学習活動等に、地域ボランティアを積極的に生かせるよう教育課程を地域との関わりの中で見直し、学習内容を工夫していきたい。

4 課題解決の方策、今後の方向性など

- 地域ボランティアの核となるにっこばまちづくり協議会との連携をさらに深め、地域に誇りをもつ児童の育成を図るための教育活動について工夫していく。

## 1 実施状況

- よんみろ会による読み聞かせ（通年） ○ 登下校指導（通年） ○ 二原遺跡見学（6月）
- 清掃工場見学（6月） ○ 県埋蔵文化財センターとのオンライン授業（7月） ○ 水源地見学（7月）
- 河川清掃と稚魚放流・魚つかみ取り（7月） ○ 郷土芸能（みっぎゃ）指導（8月）
- 社会科「租税教室」（10月） ○ 人権教室（12月） ○ シェフによる食育教室（12月）
- 地域高齢者への年賀状（12月） ○ 給食感謝集会（1月） ○ 5校合同キャリア教育学習会（1月）
- SDGsの授業（1月） ○ LGBTの授業（2月）

ボランティア登録者数(25)人

年間参加者実数(156)人見込みも含む

【連携・協働している機関】

小林市、人権擁護委員協議会、小林漁業協同組合など

## 2 特色ある取組の紹介

### 1 二原遺跡見学とオンライン授業

#### ○ 活動内容

本年度、6年生が社会科の授業の一環として地域に残る貴重な文化財である「二原遺跡」の見学を行った。見学に当たっては、社会教育課と連携して地下式横穴墓の内部を公開していただくとともに、ガイドボランティアに協力してもらった。また、児童には一人一台タブレットPCを持たせ、写真を撮ったり、メモを取ったりさせ、ICTの活用を図った。

見学後の学習として、宮崎県埋蔵文化財センターとオンラインでつないで、見学してわかったことや歴史的考察について、職員にプレゼンしたり、わからないことを質問したりする授業を行った。埋蔵文化財センターの職員に東方地区の歴史的背景や遺跡の価値についてわかりやすく解説していただき、地域に対する愛情や誇りを深めることができた。さらに、その授業には宮崎大学の小林博典先生に参観してもらい、指導助言をいただくこともできた。



地下式横穴墓の見学



地下式横穴墓の見学



オンライン授業の様子

#### ○ 参加者の声

- ・ 大昔の人たちがいたから、自分たちがいるのかもしれないと思った。どんな生活をしていたのか知りたい。(二原遺跡見学後の感想)
- ・ 大和朝廷や沖縄の人と交流をしていたことがわかった。このことから人との関わりを大切にしている、そんなご先祖様がいたと思うと東方に誇りがもてた。(オンライン授業後の感想)

### 3 取組の成果と課題 (○:成果 ●:課題)

- 地域の文化財を教材化することができ、地域に対する愛情を深め、誇りをもたせることができた。見学に際して、ガイドボランティアにわかりやすく説明していただき、歴史的事項の理解が深まった。また、オンライン授業を通して、専門的な知識を得ることができ、さらに深い学びにつなげることができた。
- 今後も地域素材や人材を積極的に教材化して、さらに郷土への理解と愛情を深めていく必要がある。

### 4 課題解決の方策、今後の方向性など

- キャリア教育の視点をもって、これまでの各活動のねらいを見直していく。また、総合的な学習の時間の年間計画や活動内容の改善を図り、積極的に地域の人材、素材を活用していく。
- 「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、地域の人的または物的な体制をさらに整備し改善し、東方ならではの創意・工夫を生かした特色ある学校づくりを進めていく。



1 実施状況

- 読み聞かせ（通年）                      ○ 登下校の見守り（通年）                      ○ 放課後子ども教室（通年）
- 生活科支援（1、2年：芋作り）                      ○ P T Aによる奉仕活動（5月、9月）
- 稲作体験（6月～12月 5年生                      ○ 蕎麦プロジェクト(9月～12月 6年生)
- 外部講師による学習補助（2年～昔の遊び・3年～味覚の授業・4年～水源地見学  
5年～手話教室・6年～感染症対策）

ボランティア登録者数(17)人 年間参加者実数(480)人	<b>【連携・協働している機関】</b> 永久津いきいき協議会 J Aこばやし営農組合
----------------------------------	--

2 特色ある取組の紹介

(1)「稲作体験」

○ J Aこばやし、営農組合にアドバイスいただき、小中学校合同で計画を立てた。6月18日、J Aこばやし、営農組合の方から苗の植え方を御指導をいただき、5年生が、中学生と一緒に田植えを行った。11月2日には、鎌を使って稲刈りを体験をした。体験を通して、児童は米作りに関わる方の努力や工夫を知ることができた。その体験も含めて、5年生は総合的な学習の時間で、米作りに関するまとめを行った。



P T A主催による地域の方々との交流活動として、12月19日に中学校と合同で収穫した餅米を



使って保護者や地域の方が「餅つき」を行った。また、地区の「母ちゃんの会」の方々の協力で温かい豚汁の振る舞いをしていただいた。

(2)「地産地消を目指した蕎麦プロジェクト活動」

○ J Aこばやし、営農組合、地域住民の方々に御協力いただき、9月～12月の期間を使って永久津地区の畑で蕎麦の栽培、収穫を行った。この体験には6年生が参加



し、永久津中学校の生徒、永久津保育園園児も一緒に参加した。9月に種を蒔き、12月に収穫した蕎麦の実を使って、年越し蕎麦打ち体験を12月16日に中学校で行った。J Aこばやし婦人部の協力もいただき、美味しい蕎麦を食べることができた。児童は、自分たちが収穫した蕎麦の実が蕎麦になる体験を通して、食の大切さにも気付くことができた。永久津ならではの食の体験ができた。

3 取組の成果と課題（○:成果 ●:課題）

- コロナ禍で感染症対策をとりながらであるが、保護者や地域の方々の御理解と御協力をいただき、児童は地域との関わりを実感するとともに、食についての関心や理解を深めることができた。
- 実施にあたり、時期や日程等、天候に左右される場合もあるため、打ち合わせの段階で、そういった場合も含め臨機応変に対応できる計画を立てておく必要がある。

4 課題解決の方策、今後の方向性など

- 学校行事や地域、関係機関との連携による行事に関しては、日程や時間も含め、ある程度綿密な打ち合わせを年度当初にしておくことよい。
- 地域行事に積極的に参加し、地域の方々とふれあう機会を増やすとともに、ボランティアを含めた人材発掘に努める。

1 実施状況

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 登校時の見守り隊(通年)</li> <li>○ 火曜日の読み聞かせ(通年)</li> <li>○ 交通安全協会による交通教室(4月)</li> <li>○ 6年社会科「古代の学習」講師(5月)</li> <li>○ 6年社会科「小林市の史跡」の講師(5月)</li> <li>○ 堆積物除去、窓ふき等の美化作業(5月・2月)</li> <li>○ 6年スマホ・ケータイ安全教室の講師(6月)</li> <li>○ 3年こすもす科「ほたる学習」の講師(6月)</li> <li>○ 6年ものづくり体験学習の講師(6月)</li> <li>○ 3年社会科「スーパーマーケット見学」(9月)</li> <li>○ 5年総合「米作り」の準備・補助(6月・11月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 3年総合(福祉体験活動)の講師(10月)</li> <li>○ 4年総合「小林のまつり調べ」の講師(10月)</li> <li>○ 2年生活科の水族館見学案内(10月)</li> <li>○ 4年社会科の浄水場見学支援(10月)</li> <li>○ 4年社会科の清掃工場見学支援(10月)</li> <li>○ 3・5年こすもす科「手話」講師(1月)</li> <li>○ 2年生活科の給食センター見学案内(11月)</li> <li>○ 2年生活科「もっと仲良し町探検」の講師(12月)</li> <li>○ 5・6年非行防止教室の講師(12月・1月)</li> <li>○ 6年卒業読み聞かせ会の実施(2月)</li> </ul>
<p>ボランティア登録者数(2)人 年間参加者実数(約150)人</p>	<p>【連携・協働している機関】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市キャリア教育支援センター</li> <li>・市教委社会教育課</li> <li>・市手話サークル</li> </ul>

2 特色ある取組の紹介

1 活動名「ものづくり体験学習」

6月22日(火)は、県職業能力開発協会様のご協力をいただいて、国家資格をもつ板金、造園、染色補正の各技能士の皆様から物作りを学ぶ体験学習を実施した。

板金グループは、自分の名前を金属に打ち出し、家の門に飾れる程の立派な作品が完成した。造園グループは、流木や土、苔、石、盆栽を自分なりの発想で配置し、個性ある作品を完成させた。染色補正グループは、白色の布の上に型紙を置き、それに色を押し込んでいろんな色を刷り込んでいき、美しい作品を完成させた。

どのグループも大変熱心に取り組み、大満足の物作り体験学習だった。キャリア教育の一環として、子供達の職業観も広げる機会となり、本当に有り難かった。

【活動の様子】



3 取組の成果と課題 (○:成果 ●:課題)

- 地域の方々と学校が一体となって児童を育てる雰囲気定着している。
- ゲストティーチャーと学級担任との打ち合わせが効率よくできるようになってきており、コロナ禍でもゲストティーチャーの活用数が多い。
- 本年度の実績をもとに、指導計画案や打ち合わせ用の資料を整理・保管し、来年度以降も継続して取り組めるようにしたい。

4 課題解決の方策、今後の方向性など

- 地域とのつながりを更に深めながら、各学年の学習内容に沿った人材の発掘と支援可能な取組を見だし、教育活動の中に位置付け、継続して取り組めるようにする。

- 登校時の見守り活動(通年) ○ 読み聞かせ(通年) ○ 子ども農園の整備等(通年)
- 太鼓指導(通年) ○ 放課後子供教室(通年) ○ 交通安全教室(5月) ○ 社会科見学(須木特産6月)
- 水泳指導(6・7月) ○ 中学生による読み聞かせ(7・10・3月) ○ 木工教室(8月)
- 人権教育研修(8月)・PTA 奉仕活動(8月) ○ 3,4年社会科見学(生協9月)
- 幸っ子フェスタ(10月) ○ 太鼓フェスティバル参加(11月) ○ 社会科見学(消防署 11月)
- 鑑賞教室(11月) ○ かおる幼稚園との交流、職場体験(12月) ○ 給食感謝集会(1月)
- 中学生による吹奏楽演奏(1月) ○ 5年キャリア教育(1月) ○ 5,6年薬物乱用防止教室(2月)

ボランティア登録者数(約30)人  
年間参加者実数(約300)人

【連携・協働している機関】 ○ 「協働の学校づくり」推進協議会  
○ 幸ヶ丘放課後子ども教室 ○ につこばまちづくり協議会

## 2 特色ある取組の紹介

### 1 幸ヶ丘太鼓の指導

#### ○ 活動内容

本校職員の指導に加え、『(株)太鼓屋太鼓研修センター「響」』より外部講師を招き、幸ヶ丘太鼓の継承と技の向上を図っている。本年度は、西諸音楽大会、県太鼓フェスティバルに参加した。特に、運動会では地域の方に披露し喜ばれている。また、大会等に参加を重ねることで、自信をもって太鼓を叩けるようになった。



【外部指導者による指導の様子】

#### ○ 参加者の声

お母さんから「太鼓、がんばってるね」と褒められて、嬉しかったです。(児童の声)

### 2 幸っ子フェスタ

#### ○ 活動内容

10月に世代間交流をねらいとして「幸っ子フェスタ」を行った。保護者や地域の方とふれあい、昔の遊びや昔の生活について学び、一緒に遊ぶ日である。

今年、1～4年生が昔の遊び「笹舟づくり、数珠玉あそび」を、5・6年生が「板金作り」をそれぞれ行った。昔の遊びは、地域の方が昔話を交えながら作り方や遊び方を教えてくださり、児童は保護者や地域の方と一緒に楽しく活動することができた。また、5・6年生は、ものづくりマイスターより板金製作の手ほどきを受け、職業観を広げる活動となった。



【数珠玉で小物づくり】

#### ○ 参加者の声

今年、コロナで外に出て人と会う機会が減ったので、こうやって学校で機会があるとありがたいです。元気がでます。(地域住民の声)

## 3 取組の成果と課題 (○:成果 ●:課題)

- コロナ禍での活動は、感染拡大防止の対策や規模縮小等の工夫が必要であったが、地域の方の協力の下、計画的に、教科指導や栽培活動、奉仕作業等、本校ならではの教育活動を展開することができた。
- 地域住民の高齢化等で、地域の負担も大きくなってきていると聞く。新しい人材発掘等を講じる必要がある。

## 4 課題解決の方策、今後の方向性など

- どのような状況や変化にも順応できるように、関係機関との連携を密にしていきたい。
- 今後も地域に愛され地域に根ざした学校として、学校と地域が双方の思いを生かした活動を目指したい。

## 【 須木小学校 】

### 1 実施状況 ◎ 今年度初めて実施した活動

○ 交通立ち番指導（通年）	○ 読み聞かせ（通年）	○ 交通教室（4月）
○ ホタルの学習（5月）	○ 生活科（安全に関する）学習（6月）	
○ 須木に関する学習（6月）	○ 奉仕作業（6月、10月）◎ 全学年芋の苗植え（6月）	
○ 租税教室（6月）	◎ トイレ修理（9月）	
○ 水泳指導・見守り（6～7月）	○ 職員研修（須木のよさ再発見研修7月）	
○ 手話講座（9月）	◎ 全学年芋掘り（10月）	
○ 3年生社会科見学（10月）	○ シェフのこぼやし食育教室（10月）	
○ 校内の草抜き作業（10月）	○ 1・2・3年生生活科・社会科見学（11月）	
○ 消防署見学（11月）	○ 鑑賞鑑賞（11月）	◎ 土木の日（11月）
○ PTAお楽しみ会（11月）	○ 4年生社会科見学（11月）	
○ うなぎの放流体験（11月）	○ 2年生まちたんけん（12月）	
○ 非行防止教室（12月）	○ 警察署見学（12月）	○ 人権教室（12月）
○ 保育園との交流（12・1月）	○ 火災の避難訓練（1月）	○ 立志式講話（2月）

ボランティア登録者数（21）人 年間参加者実数（270）人 見込も含む	【連携・協働している機関】 ○ 小林市役所須木庁舎 ○ すきむらづくり協議会
--	---

### 2 特色ある取組の紹介

#### 【草抜き作業】

昨年度に引き続き、須木商工会女性部の方々から申し出があり、校内の草抜きの作業を行っていただきました。全校児童、職員も少なく、思うように除草作業などができていないところの作業で、非常に、有り難かったです。2時間の作業で、校内が見違える程きれいになりました。後日実施した保護者・児童・職員による奉仕作業も範囲が減り、負担の軽減が図られました。



#### 【土木の日】

小林土木事務所、小林地区建設業協会、小林地区造園組合、西緒県地区測量設計業協会の皆様による、土木に関する体験学習を行っていただくことで、職業について考えさせるよいきっかけとなった。また、別に行っていたボランティア活動によって、老朽化のために立入禁止にしていた体育館の外階段の撤去、体育館屋根の草取り、背丈の高い樹木の剪定、コンクリートによる出入口のスロープ作りを行っていただき、児童の安全を確保することができた。



### 3 取組の成果と課題（○:成果 ●:課題）

- 地域の方に学校環境整備作業を行っていただき、保護者・児童・職員の負担を減らすことができた。
- 地域や地域人材との交流を行うことで、地域に対する児童の意識を高めることができた。
- 土木の日で、職員等ではできない大がかりな奉仕作業を行っていただくことで、安全面の確保ができたとともに、費用の面でも非常に有り難かった。
- 依頼する人材が限定されており、新たな活動を組み込むのが難しくなっている。

### 4 課題解決の方策、今後の方向性など

- 方法や内容を少しずつ変えたり工夫したりしながら、より効果的な学校支援の在り方を模索していく必要がある。

1 実施状況

○ 読み聞かせ（通年）	○ 登下校安全指導（通年）
○ 伝統芸能指導【棒踊り】（6～9月）	○ 学習支援<プリントの丸付け・印刷他>（通年）
○ 地域の歴史学習支援（4年11月）	○ 芋植え・芋掘り支援（6月・11月）
○ 田植え・稲刈り支援（6月・10月）	○ 収穫感謝集会参加（12月）
○ 国際理解教育支援（3・4年授業支援）	
ボランティア登録者数（45）人	【連携・協働している機関】 JA こぼやし・営農組合
年間参加者実数（391）人※R3.12月現在	フロンティアのじり・読み聞かせボランティア・国際交流支援の会

2 特色ある取組の紹介

【学習支援ボランティア】

昨年度から取り組んでいる学級運営支援に加えて、本年度は、直接的な授業支援が加わりました。授業支援の主な内容は、学習活動の補助、思考及び理解を促すための助言、担任の指示の確認、練習問題の丸付け、姿勢その他学習態度に関する支援です。児童は、「ボランティアの先生に分からなかったところを教えて貰えて、嬉しい。」と感想を述べていました。また、ある授業者は、「理科実験でサポートしていただき、ありがたかった。」と話していました。今後も地域に根ざし地域とともに児童を育む「協働の学校づくり」を目指すとともに、学校の教育活動の一層の充実を図っていきたく考えます。



（ボランティアの活動の様子）

《本年度の主な取組》施設内の消毒の加勢、プリントの印刷や製版、宿題の丸付け、教具の作成、図書の製本、提出物のチェック。空き教室(学習室)を専用の部屋として、毎日2～5名のボランティアが来校され、業務にあたられています。

【伝統芸能指導～棒踊り】

今年も、5、6年児童は、東麓新地馬場保存会の皆さんから、棒踊り練習や棒踊りの歴史（講話）についてご指導いただきました。児童が、運動会で保護者や地域の方に棒踊りを披露することで、郷土芸能が児童に継承されていることを広く伝えるとともに、児童も達成感を味わうことができました。

また、5年生の「棒踊りの歴史」学習では、棒踊りの動きや衣装・道具の意味、野尻小で棒踊りが伝承されるようになった経緯等を詳しく分かりやすく説明していただきました。保存会の方々の熱い思いも伝わり、児童は、「野尻地区に伝わる棒踊りを頑張っ覚えてぞ。」と話し、伝統を継承することの大切さと責任を強く感じる時間となりました。



（運動会での棒踊り披露の様子）

3 取組の成果と課題（○：成果 ●課題）

- 児童にとっては、多様な人との関わりの中で、社会性や学習意欲の向上が図られた。
- 職員にとっては、学習支援ボランティア導入により、児童と直接向き合う時間をより確保できた。
- 地域住民等にとっては、ふれあいの場となり、学校での絆づくりを推進することができた。
- 個人情報守秘義務の徹底

4 課題解決の方策、今後の方向性など

- 学校コーディネーター(教頭)が早めに担当者(授業者)と打合せをして、充実した教育活動が展開できるように、教育活動の目的や流れ、配慮事項等を確実にボランティアにつなぎたい。
- 個人情報守秘義務については、必要に応じて適時、具体例を挙げて話題にし、理解を図っていきたい。

1 実施状況

- 読み聞かせ（毎月1回、朝の活動の時間に実施）
- 学習支援ボランティアによる授業支援（通年）
- 通学時におけるあいさつ運動（地区別とPTA専門部会を交互に、毎月実施）
- PTA奉仕作業および環境整備部美化活動（年間5回実施）
- 学校田での稲作活動の支援（PTA事業部が中心、6月田植え、11月稲刈り）
- プール清掃における消防団の協力（6月）
- 総合的な学習の時間における「鉦踊り」の伝承活動の支援（保存会の方から 8・9月）
- 校内持久走大会における中央消防署及び消防団の協力（11月）
- 学校梅園の剪定作業（11月）

支援ボランティア登録者数（14人）  
年間参加者実数（1,030人）

【連携・協働している機関】

- 読み聞かせボランティア「たんぽぽ」
- みかんやまスマイル会議

2 特色ある取組の紹介

○ 学習支援ボランティアによる支援

学習支援ボランティア登録者の方を中心に、プリントの丸付け等の支援をいただいております。担任の負担軽減につながっています。コロナ禍により、以前より学級内での授業支援は減ってきているが、5年生の家庭科でミシンを使う際など、支援ボランティアに入っていただいたことにより、より細かな指導が可能となった。



○ 学校田での稲作活動の支援

学校近くにある学校田で育てている「栗須っ子米」（もち米）の栽培はPTA事業部をはじめ、多くの方の協力と支援をいただきながら行っている活動である。親の世代から続く学校田での米作りは栗須小には欠かせない活動となっており、地域の高齢者ともふれ合うことのできる貴重な体験活動である。



○ みかんやまスマイルフェスタにおける地域との協働

11月に行われる「みかんやまスマイルフェスタ」では、午前中に持久走大会と餅つき（収穫祭）、午後からは地域の方と共に防災訓練を行っている。「みかんやまスマイルフェスタ」は子ども達と保護者のもとより、地域住民と消防関係機関も協力して実施しており、互いの絆が深まる恒例行事である。例年、午後からは防災訓練を行っているが、本年度は特に、フェスタのメインとして宮崎県の防災ヘリ「あおぞら」が運動場に着陸して救助訓練を行う様子を見学し、キャリア教育にもつながる活動となった。



3 取組の成果と課題

- 保護者、地域住民共に学校に対しての協力は惜しまないという思いが強く、様々な活動に対して多くの協力をいただき、充実した活動が可能となっている。「互いに知恵を絞って意見を出し合い、決まったことに積極的に関わっていく」という「三ヶ野山魂」が根付いている。
- コロナ禍により、地域と学校の協働活動が限られてきている部分がある。コロナ禍でも継続していける活動を考え、工夫していくことが必要である。
- 学校に関わる方に、守秘義務の遵守や人権への配慮を周知しておく必要がある。

4 課題解決の方策、今後の方向性など

- 地域からの協力により協働を進めるだけでなく、学校からの情報発信と働きかけにより、充実した協働活動へとつなげていきたい。

## 1 実施状況

- 読み聞かせ（通年）      ○ 登下校の見守り（通年）      文化伝承活動「城攻め踊り」（通年）
- 環境整備活動（通年、一斉は年2回）      ○ 運動会支援（9月）
- 学習支援：生活科「七夕飾りづくり」（7月）、「昔の遊び」（2月）
- 体験活動支援「もち米づくり」（6月：田植え、10月：稲刈り、通年：除草等）  
「イモの栽培」（6月：イモの苗植え、11月：イモ掘り、通年：除草等）

ボランティア登録者数( 25 )人  
年間参加者実数( 288 )人

【連携・協力している機関】  
読み聞かせグループ「たんぼぼ」

## 2 特色ある取組の紹介

### （1）体験活動「芋苗植え、芋の収穫」

小学1年生から3年生までが参加している。6月に苗植え、11月に収穫を行い、どちらの活動にもJ A職員やJ A青年部及び有志の方々に支援をいただいている。収穫後は、1年生から6年生がそれぞれの発達段階に合わせた芋料理作り、農業と食についての貴重な体験活動となっている。



### （2）文化伝承活動「城攻め踊り」

紙屋地区に伝わる伝統芸能「城攻め踊り」について、城攻め踊り保存会の方からその歴史について講話をいただき、その後練習を行っている。練習では、保存会の方々から踊りの手本を披露していただいたり、6年生が4・5年生に踊りを教えたりしている。小中合同運動会は規模を縮小しての開催となり、オープニングセレモニーとして城攻め踊りを披露することができた。



城攻め踊りについては地域の方の思いも強く、今後も地域の伝統芸能として末永く紙屋地区に残していくための大きな役割を担っている。

## 3 取組の成果と課題（○:成果 ●:課題）

- 豊富な地域人材に恵まれ、子どもたちは恵まれた環境の中、様々な教育活動の支援をいただいている。ボランティアの方々には普段から学校へ足を運んでいただき、児童との交流が図られている。
- 新型コロナウイルスの影響により、本年度は活動の中止や規模を縮小して実施せざるを得ないことが多くあった。

## 4 課題解決の方策、今後の方向性など

今後、コロナ禍の中の学習支援の在り方について、ボランティアの方と一緒に考えていく必要がある。新規ボランティア発掘のために今後地域への呼びかけを行っていきたい。

## 1 実施状況

○ 交通教室（４月）	○ 薬物乱用防止教室（５月）
○ 手話講座（７月、９月）	○ 職業講話（７月）
○ 「いのちの教育」平和学習（８月）	○ 救急救命講習会（８月）
○ 農業体験学習（１１月）	○ 鑑賞教室（１１月）
○ 避難訓練（１１月）	○ 租税教室（１２月）
○ リコーダー講習（１２月）	○ L G B T 講話（１２月）
○ 礼法指導（１２月）	○ 立志式（２月）
○ 部活動支援、読み聞かせ（通年）	○ 朝のあいさつ運動（９月、１月）
ボランティア登録者数（ 18 ）人 年間参加者実数（ 417 ）人 見込みも含む	【連携・協働している機関】 KSSVC事務局・小林市キャリア教育支援センター等

## 2 特色ある取組の紹介

### 【農業体験学習】

北きりしま田舎物語推進協議会を中心に計画や準備を進め、11月に実施した。1年生を対象に、新型コロナウイルス感染防止を図るため、日帰りでの体験学習とした。

受け入れ家庭は23カ所で、多くの方々にご協力をいただいた。学校からの送迎も体験先の各家庭に行っていただき、感謝する次第である。生徒たちは、事前の希望調査により6名程度のグループに分かれており、それぞれの家庭で農業体験を行った。以下は生徒の感想である。

- ・「農家の方が温かくむかえ入れてくださって、いろんなことを知ることができました。地域の人たちの温かさや農業の大切さを学習することができました。」
- ・「今日は食の大切さを学びました。普段、当たり前のように食べさせてもらっている”命”のありがたさをとても感じました。」



## 3 取組の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- 農業体験において、北きりしま田舎物語推進協議会と連携を密にして取り組むことができた。体験する家庭との連絡調整、送迎の準備等、同協議会が中心となって進めていただいた。
- コロナ禍で、日帰りでの体験学習となったが、農家の方々も民泊することを願っており、次の機会では、是非、民泊で計画したいと考えている。

## 4 課題解決の方策、今後の方向性など




今回の農業体験では、準備等での学校の負担感が少なかった。改めて、学校に協力する地域の姿勢に心を打たれた。地域学校協働活動を継続していく上で、負担感より満足感や達成感が勝るような取組を今後も計画していかなくてはならない。



1 実施状況 ◎は今年度初めて実施した活動

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 読み聞かせ（通年）</li> <li>○ 朝のあいさつ運動・ふれあい登校（通年）</li> <li>○ 部活動支援（通年）</li> <li>○ 交通安全教室（4月）</li> <li>◎ 哲学対話集会①（5月）</li> <li>◎ 哲学対話集会②（7月：3年）</li> <li>○ 農業体験学習（7月：1年）</li> <li>○ 職場体験学習（7月：2年）</li> <li>○ 情報安全教室（7月）</li> <li>○ 消費者教育（9月：3年）</li> <li>○ 細野地区クリーン作戦（10月）</li> <li>○ 図書館まつり（10月）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 議会傍聴見学（11月：1年）</li> <li>○ 福祉体験手話講座（12月：3年）</li> <li>○ 薬物乱用防止教室（12月）</li> <li>◎ 哲学対話集会③（12月：2年、小6）</li> <li>○ 駅伝ロードレース大会（12月）</li> <li>○ 門松づくり（12月）</li> <li>○ 根性行進・ふるまい（1月）</li> <li>◎ 未来を考える会（1月）</li> <li>○ 面接指導（1月：3年）</li> <li>○ 立志式（2月：2年）</li> <li>◎ キャリアを考える会（2月：1年）</li> </ul>
<p>ボランティア登録者数 （ 0人） 年間参加者実数 （130）人 見込みも含む</p>	<p>【連携・協働している機関】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 細野地区まちづくり協議会</li> <li>○ 北きりしま田舎物語推進協議会</li> <li>○ 市教育委員会スポーツ振興課</li> <li>○ 社会福祉協議会 ○ KSSVC</li> <li>○ 読み聞かせグループ：ママーズ</li> </ul>

2 特色ある取組の紹介

<p>《哲学対話》『将来の生き方を考える講演会並びに対話集会』</p> <p>本年度より取り組んでいる哲学対話の一つとして7月に実施した。当日は、県キャリア教育支援センターの水永正憲様より講演をいただき、その後、地域の方々との対話を通して望ましい勤労観や職業観を養い、将来の生</p>  <p>き方や幸せについて考えたり、生まれ育ったふるさとの魅力や課題について考えたりする機会とした。《生徒の感想》難しく考えていたが、いろいろな考えを聞き、自分の将来を考える良い機会となった。</p>	<p>《農業体験学習》</p> <p>「農業の体験学習を通して農業の大切さに気づき、食に対する感謝の気持ちをもつこと」や「仲間との共同生活・作業を通して絆や和を深めること」を目的として</p>  <p>毎年実施している。地域の皆様のご協力のもと、11カ所の農家で民泊体験学習を受け入れていただいた。農作業体験はもちろんのこと、民泊の中での調理体験は、食に対する興味関心を高めるために大変有意義な行事となっている。《生徒の感想》学校では学べないことを学んだり、気付いたりすることができて楽しかった。</p> 
--	--

3 取組の成果と課題 (○:成果 ●:課題)

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 様々な関係機関をはじめとして、多くの地域の方々への支援や協力のもと行事を実施することができた。そのことが生徒にとって地域への感謝の気持ちであったり、貢献する意欲の高揚につながったりしている。</li> <li>● 昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため多くの学校行事等が日程や実施形態を変更、中止などの措置を執る中で実施された。今後もこの状況が続くことが予想される中で、生徒に多くのことが還元できる取組を工夫していくことが課題である。</li> </ul>
---

4 課題解決の方策、今後の方向性など

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学校行事に対する地域、関係機関とのスムーズな連携は、活動の見直しや精選を図りながら教育課程として編成していく必要がある。</li> </ul>
--

## 【西小林中学校】

### 1 学校支援の実施状況 ◎は今年度初めて実施した活動

- 読み聞かせ（通年） ○ 登下校安全指導（通年） ○ 交通教室（4月） ○ 技術・家庭科（カライモの植え付け：5月、カライモの収穫：11月、カライモを使った郷土料理調理実習：12月）  
 ○ 認知症サポーター養成講座（6月） ○ 福祉体験学習（6・7月） ○ 平和学習（全校集会：8月）  
 ○ 避難訓練（5月、11月） ○ 防災学習（9月） ○ 手話講座（7月） ○ ライフプラン教室（12月）  
 ○ キャリア教育「未来予想図講話」（11月） ◎ キャリア教育「職業講話」（10月）  
 ○ 農業体験（11月） ○ キャリア教育「職場体験学習」（7月） ○ 未来予想図発表会（12月）  
 ○ 職場体験学習発表会（12月） ○ 立志式（2月） ○ 先輩と語る会（3月）

ボランティア登録者数（ 0 ）人

年間参加者実数（ 180 ）人 見込みも含む

【連携・協働している機関】

社会福祉協議会、にっこばまちづくり協議会等

### 2 特色ある取組の紹介

#### 《地域人材を積極的に活用したキャリア教育(生き方を語る教育)の実践》

##### 1 6月:「認知症サポーター養成講座」(3年)

これまでも実施していた講座であるが、本年度は、その学びを深めるために、小林市社会福祉協議会と連携し、高齢者疑似体験学習も実施した。認知症を患う高齢者への対応を学ぶだけでなく、高齢者が介助を必要とする場面や「福祉」という大きな考えでとらえることができるようになり、大きな成果を得ることができた。



##### 2 10月:「未来予想図講話」(3年)

「地域人材を積極的に活用したキャリア教育」に取り組む中で、最終ゴールと設定している「未来予想図」作成において、生徒たちが主体性をもって、課題解決に取り組むきっかけとして「未来予想図講話」を実施した。アドバイザーとして小林市役所企画政策課の方や小林まちづくり株式会社の方々に講話をしていただき、その後にフリーディスカッションも設定した。



##### 3 11月:「農業体験」(2年)と12月:「郷土料理づくり」(全学年)

本校の伝統行事の一つになる「郷土料理づくり」である。これは第2学年が技術・家庭科の授業の一環として、5月に芋の植え付け作業を行い、11月に収穫作業を行っている。その収穫した芋を材料として、調理実習で地域の婦人会の方の協力を得て、各学年で郷土料理の一つである「がね」をつくる活動である。本年度は延べ16名の方々と一緒に思い出に残る楽しい時間が共有できた。



### 3 取組の成果と課題 (○:成果 ●:課題)

- 昨年度の成果を土台にしなが、更なる見直しを行い、地域人材を活用したキャリア教育の質の向上を図ることができた。コロナ禍の中で、感染防止対策を行いながらの実施ではあったが、地域住民の学校教育への参画意識がさらに高まったと感じる。

### 4 課題解決の方策、今後の方向性など

- 今後は、現状に満足することなく、地域の方々の意見にさらに耳を傾け、よりよい取組となるよう、また本校ならではの持続可能な取組となるよう、カリキュラムおよび学習内容等の更なる見直しと改善を図っていきたい。

1 実施状況 ◎は今年度初めて実施した活動

- 読み聞かせ（通年）      ○ 交通安全教室（4月）      ○ P T Aによる美化活動（5月・9月）
- 芋の苗植え・収穫体験（5月・10月）      ○ 稲作体験（6月・11月）
- 高校説明会（7月・9月）      ○ 救急救命講習会（8月）
- 秋蕎麦プロジェクト（9月・12月）      ○ 職場体験学習、福祉体験学習（9月）
- 性教育（9月）      ○ 手話講座（11月）      ○ 租税教室（11月）
- P T Aによる門松作り（12月）      ◎ 永久津いきいき交流活動（12月）
- 給食感謝集会（1月）      ○ 学校保健委員会（2月予定）      ○ 薬物乱用防止教室（3月予定）

ボランティア登録者数（26）人  
年間参加者実数（164）人 見込みも含む

【連携・協働している機関】  
J Aこばやし営農組合、永久津いきいき協議会  
小林市社会福祉協議会

2 特色ある取組の紹介

(1)「芋の苗植え・収穫体験」

○ 地域コーディネーターの皆さんからアドバイスを頂きながら芋の苗植え及び芋の収穫を行った。生徒たちは、苗の植え方で実のつき方が変わることを知り、勉強になったと感想を述べていた。また、収穫した芋を使い、家庭科の授業（調理実習）でさつまいもを使った「幼児のおやつ、サラダ、甘辛煮」を作り、どれも美味しくいただいた。



(2)「秋蕎麦プロジェクト」



- J Aこばやし営農組合の皆さん、地域の皆さんの協力を頂きながら、永久津保育園の年長さんも参加をし、保・小・中で協力しながら、蕎麦の種まきを行った。
- 9月にまいた蕎麦の種が成長し、開花した時の空中写真や収穫作業の様子について説明を聞いた後、蕎麦打ちの手順を教えて頂き、保・小・中で協力して蕎麦打ちを行った。蕎麦の種まきや蕎麦打ちは、初めての経験でしたが丁寧に教えて頂き、美味しい十割蕎麦を完成・試食することができた。

(3)「永久津いきいき交流活動」

○ 昨年、コロナ禍により中止となったが、「児童・生徒、保護者、地域の皆様との世代間交流」を目的として、PTA三役と事業部のお父さん方を中心に、地域の「永久津いきいき協議会」とも連携し、交流活動（ミニ門松作り、餅つき体験、豚汁の振る舞い）を実施した。ミニ門松作りでは、親子で協力しながら作ったり、周りの大人に教えてもらって作ったりと楽しい時間を過ごすことができた。



3 取組の成果と課題(○:成果 ●:課題)

- 保・小・中・保護者・地域と共に永久津の伝統を継承している。
- さまざまな活動を展開するにあたり、地域の方々の協力は必要不可欠である。しかし、中には幾つもの役職を兼任している方も多く、負担に感じている方もいる。今後は、地域の人材を発掘していくことが課題である。

4 課題解決の方策、今後の方向性など

- 地域や関係機関との連携による行事については、活動の見直しや内容を整理する必要がある。
- コロナ禍に伴い、地域の方々とふれあう機会も少ないが、地域行事など機会があれば積極的に参加し人材発掘に努める。また、回覧板等を活用し、地域への広報活動を図る。（ボランティア募集等）

1 実施状況

- |                     |                |
|---------------------|----------------|
| ○ 読み聞かせ(通年)         | ○ 福祉体験学習(6月)   |
| ○ 東方輪太鼓踊り指導【輪太鼓保存会】 | ○ ふれあい体験学習(6月) |
| ○ 花いっぱい運動(通年)       | ○ 手話講座(7月)     |
| ○ 登下校安全指導(通年)       |                |

ボランティア登録者数( 25 )人

年間参加者実数 ( 355 )人 見込みも含む

【連携・協働している機関】

社会福祉協議会・社会福祉法人連絡会

2 特色ある取組の紹介

福祉に関する学習支援【総合的な学習の時間、家庭科、生徒会活動】

☆福祉体験学習

小林市社会福祉協議会の方々から身体の不自由な人や高齢者への介護の仕方について体験学習をとおして学びました。また、陽光の里では車椅子での介助の体験をしました。

(生徒感想)

体験を通して、介護の仕事の大変さがわかりました。高齢者の方々のことを考えて接していきたいと思いました。



☆ふれ合い体験学習

保育園ふれあい体験を行いました。総合的な学習の時間等で学んだことを実践しました。



☆花いっぱい運動

全校生徒で育てた花をお世話になった学校支援ボランティアさんや高齢者福祉施設、一人暮らしの高齢者に届ける活動をしています。



☆手話講座

講師から手話での自己紹介を教えていただき、練習しました。手話の難しさと大切を学びました。



3 取組の成果と課題 ( ○:成果 ●:課題 )

- 総合的な学習の時間は「福祉」の学習に重点をおいて取り組んでいるが、地域の福祉施設の関係者(社会福祉協議会、高齢者福祉施設等)と協力して体験活動や専門的な講話などを行ってくださり、学びの深まりに加えてキャリア教育の充実にもつながっている。
- 昭和37年宮崎県無形民俗文化財第1号指定の輪太鼓踊りについては、新型コロナウイルス感染症の関係で運動会と校内駅伝大会前に地域と保護者に披露した2回だけであった。

4 課題解決の方策、今後の方向性など

- 伝統芸能である「東方輪太鼓踊り」を継承するためには、地域に根差した人材育成が急務と考えるため、卒業生から学生ボランティアを募集し、東方輪太鼓踊り保存会の準会員として協力を依頼する仕組みづくりを考えていたが、感染症の影響ですすめることができなかった。アフターコロナを考え次年度はその仕組みづくりに取り組む。
- 地域とともにある学校づくりの視点で、生徒が中心となりオープンした「おじゃったもんせカフェ」を学校敷地内に設けた。関係機関との協力やまちづくり協議会との連携を図り、活用を推進していきたい。

## 1 実施状況

- 読み聞かせ（通年） ○ 登下校安全指導（通年） ○ 部活動指導（通年）
- 社会人の声を聞く会（6月） ○ ダイバーシティ教育（6月） ○ 高校説明会（9月）
- 岩戸神楽（10月） ○ 花壇植栽（11月） ○ 鑑賞教室（11月）
- 手話講座（12月） ○ メディア教育講演会（12月） ○ 13歳のハローワーク（1月）
- 面接指導（1月） ○ 立志式特別講演会（2月） ○ 情報モラル教育（2月）

ボランティア登録者数( 0 )人  
年間参加者実数(599)人 見込も含む

### 【連携・協働している機関】

・ KSSVC事務局 ・ 小林市キャリア教育支援センター

## 2 特色ある取組の紹介

### 【「魅力ある学校づくり」(ダイバーシティ教育)】

本校は、国立教育政策研究所の委嘱を受け、「魅力ある学校づくり」に取り組んでいる。「集団指導（お互いのつながりを深める集団づくり）」の具体的な手立てとして「ダイバーシティ教育」を宮崎大学と連携して第1学年を中心に4回の授業（社会科・学級活動・こすもす科）にて実践した。宮崎大学の戸ヶ崎泰子教授によるPPR（仲間に対するポジティブな報告を増やすアプローチ）授業を実施した。



### 【岩戸神楽】

地元神社に伝わる神楽を2年生が舞った。ここ数年、神社にある衣裳などを含め道具をお借りし、地元の方の指導で学年一丸となって文化発表会で発表している。今年度も立派に舞うことができた。後継者がいない、育たない現状があり、地元の方が困っていることを聞く。神楽を子どもたちに伝えることで、今後継続して伝統を守るきっかけにできたらと思う。

代表で演技した者にとっては、とてもいい経験になっていると考える。



## 3 取組の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- コロナ感染症の影響で、年間行事の期日の変更等があったが、講師の方も快く引き受けていただき助かった。
- 今年度も、学校と地域コーディネーターとの連携が不十分。地域コーディネーターは、学校からの依頼をまっていたがなかなか活用していただける場がなかった。相互の連携を密にしていく必要がある。
- コロナ感染症の関係で、地域ボランティアを募集等の活動ができなかった。今後、募集の仕方を工夫するなど、地域の方との交流を増やしたい。

## 4 課題解決の方策、今後の方向性など

- 地域コーディネーターとの連携を密にし、地域ボランティアの募集をかけたい。積極的に地域の行事への参加を通して、地域の方との交流を増やしたい。
- 地域への広報活動を積極的に進めていきたい。（区長→回覧板を活用）

1 学校支援の実施状況 ◎は今年度初めて実施した活動

- 読み聞かせ（通年） ○ 福祉体験（7月） ○ ふれあい給食（10月）
- 避難訓練（4月、9月、12月） ◎ 学校運営協議会での校則検討委員会（10月）
- いのちの授業（7月） ○ 防災に関する授業（7月～9月）
- ◎ にしもろ生徒会サミット（10月） ◎ SDG sに関する授業（7月～10月）
- ◎ 地域伝統行事の継承に関する授業（9月～10月） ○ 須木ほぜ祭り（11月）
- 暮らしの困り事たすけ隊（12月） ○ 年賀状交流（12月） ○ しめ縄作り（12月）
- リモートによる総合的な学習や教科の授業、講演会や生徒会交流（年間12回程度）
- 地域人材等による講話（ドリームジャンボ学園：年間5回）

ボランティア登録者数(30)人

年間参加者実数(100)人 見込も含む

【連携・協働している機関】

学校運営協議会、社会福祉協議会須木支所、須木友愛クラブ、等

2 特色ある取組の紹介



【校則検討委員会】



【にしもろ生徒会サミット】



【SDG sに関する授業】

本校では、地域の方々の協力を得ながら多くの年間行事が行われている。社会福祉協議会と連携した「ドリームジャンボ学園」や、3年生を対象とした高齢者福祉体験、地域で年末の大掃除を手伝う「暮らしの困り事たすけ隊」など、様々な企画に参加することができた。須木地区の友愛クラブの方々とのしめ縄作り体験や、地域の方々への年賀状作成を学校行事として行い、今年も須木ほぜ祭りでボランティアとしてステージでダンスや太鼓を披露した。昨年度より、総合的な学習の時間や教科の授業、講演会などをリモート形式で行い、他校の生徒や外部講師と交流を図る取組を数多く行うことができた。学校運営協議会に生徒会役員が参加して校則の改訂について意見を述べたり、市青年会議所主催のサミットに参加して複数の学校の生徒会役員と意見交換をしたりなど、今年も広い意味での地域協働の学校支援と言える新しい取組のおかげで、今後の生徒の成長が期待される場所である。

○ 参加者の感想（「にしもろ生徒会サミット」に参加した生徒会役員の感想より）

- ・自分の意見をしっかり言えるか心配でしたが、リモートに慣れていたので予想以上に落ち着いて話をすることができました。他の学校の生徒と交流ができて良い経験になりました。

3 取組の成果と課題（○:成果 ●:課題）

- コロナ禍においても、リモートを活用して様々な方との出会いや体験があり、生徒の視野を広げ表現力やコミュニケーション力を高めることができつつあると実感している。
- 生徒が企画の段階から、さらに主体的に取り組める方法を模索していく必要がある。

4 課題解決の方策、今後の方向性など

- 生徒会のリーダー研修等を通して生徒の主体性を育て、今後の授業や行事においてもっと自発的に企画・運営に関わらせていこうと考えている。
- 生徒数の減少に伴い、さらに多くの地域の方々と新しい協働体制を作っていく必要がある。

1 実施状況

- |                       |                        |
|-----------------------|------------------------|
| ○ 読み聞かせ（通年 2月1回：たんぼぼ） | ○ 人権教育（12月）            |
| ○ 部活動指導（通年：6名）        | ○ 薬物乱用防止教室（11月）        |
| ○ 交通教室（5月）            | ○ 高校説明会（6月・1月）         |
| ○ 救急救命講習会（7月）         | ○ 性教育（6月・12月・1月・2月・3月） |
| ○ 学校保健委員会（6月）         | ○ 給食感謝集会（2月）           |
| ○ 小林市未来予想図中間発表会（9月）   | ○ 避難訓練「引き渡し訓練」（6月）     |
| ○ 家庭教育学級（7月・11月）      | ○ 情報モラル教室（7月）          |

ボランティア登録者数（21）人  
年間参加者実数（90）人 見込も含む

【連携・協働している機関】

- 読み聞かせグループたんぼぼ

2 特色ある取組の紹介

《避難訓練「引き渡し訓練」》

昨年度に引き続き、土砂災害や洪水災害を想定しての「災害時の保護者への引き渡し訓練」を実施した。昨年度は、小学校2校と同日に小学校が引き渡した後に中学校が引き渡す流れで順番を事前に決めた上で実施した。



しかし今回は昨年度の反省を元に「幼・保」とも連携し、さらには引渡の順番を設定せず実施した。昨年度も経験していたこともあり、大きな混乱はなかった。

しかし、車に提示する「ネームプレート」を全ての車に常備しておくのかなどの新たな課題も見つかった。



しかし今回は昨年度の反省を元に「幼・保」とも連携し、さらには引渡の順番を設定せず実施した。昨年度も経験していたこともあり、大きな混乱はなかった。

《情報モラル教室》



乳幼児メディアアドバイザーの松田康成さんを講師にお招きし、情報モラル教室を「リモート」で実施した。デジタル社会は便利ではあるが、長時間使用するなど間違った使い方をしてしまうと体に悪影響（目や耳、ストレートネック、ロコモティブシンドローム、依存症など）が出てしまうこと。また、体だけでなくネットトラブルに巻き込まれたりすることで心にも悪影響が出てしまう恐れがあること。危険と隣り合わせのデジタル社会とどう向き合っていくべきかを、丁寧に説明していただいた。これから上手にデジタル社会と向き合っていくためにも、教えていただいたポイントを生徒たちが実践してほしいと感じた。

3 取組の成果と課題（○：成果 ●：課題）

- コロナ禍においても、「リモート開催」するなど、状況に応じて実施方法を工夫することで対面式と変わらない「学び」を得ることができると感じた。
- 昨年度に引き続き、コロナウイルス感染拡大防止のため多くの学校行事等が中止や規模縮小開催となった。そのような中でも生徒たちに多くのことが還元できる取組を工夫していくことが課題である。

4 課題解決の方策、今後の方向性など

- 学校行事や地域、関係機関との連携による行事等は、活動の見直しや精選を図りながら教育課程を編成していきたい。

1 実施状況 ◎は今年度初めて実施した活動

- |                                      |                     |
|--------------------------------------|---------------------|
| ○ 陸上クラブ指導（通年）                        | ○ 陶芸教室（7月、10月）      |
| ○ 朝の交通指導・あいさつ（通年）                    | ◎ 情報安全教室（7月）        |
| ○ 読み聞かせ（通年：月1回）                      | ○ スマホ・ケータイ安全教室（7月）  |
| ○ 米作り・餅つき支援<br>（6月、7月、8月、9月、10月、12月） | ○ 城攻め踊り指導（9月、10月）   |
| ○ 薬物乱用防止教室（6月）                       | ○ 職場体験学習（11月）       |
| ○ キャリア教育：生き方講話<br>小林西高等学校（6月）        | ○ 高妻神社清掃（11月）       |
| ○ 高校説明会（6月）                          | ○ 租税教室（12月）         |
| ○ プール清掃（6月）                          | ○ 世代間交流「しめ縄作り」（12月） |
| ○ 手話講座（6月）                           | ◎ 人権教育講演会（12月）      |
|                                      | ◎ ものづくり体験教室（12月）    |
|                                      | ○ 避難訓練：火災（12月）      |

ボランティア登録者数(24)人  
年間参加者実数(209)人 見込も含む

【連携・協働している機関】

読み聞かせグループたんぽぽ、KSSVC事務局  
紙屋校区社会福祉協議会

2 特色ある取組の紹介

1 ものづくり体験教室

○ 活動内容

全学年の生徒が、造園と広告美術の体験を行った。宮崎県職業能力開発協会の協力により6名のものづくりマイスターの方々にご指導いただきながら、生徒たちはミニ造園づくりと切り絵づくりから1つを選択して、ものづくりの魅力を感じながら楽しく体験することができた。どの生徒も完成した自分の作品に満足した様子で、最後にマイスターの方々と共に記念撮影をして体験を終えた。



○ 参加者の声

造園をご指導いただいた弥永重俊様は、「造園はとても大切な仕事です。植物や庭づくりに興味のある人は、ぜひ造園の仕事を目指してほしい。」とあいさつをされた。また、広告美術を体験した生徒は、「今日の体験を将来の職業選択に役立てていきたいと思えます。」とお礼の言葉を述べた。



2 世代間交流「しめ縄作り」

○ 活動内容

第1学年の生徒が、他者を敬う精神や伝統を重んじる心を養うことを目的として、しめ縄づくりに挑戦した。しめ縄を作るのは全員が初めてであったが、小林市社会福祉協議会（野尻支所・紙屋校区）の11名の方々にご指導いただきながら、上手にしめ縄を完成させることができた。



○ 参加者の声

紙屋校区社会福祉協議会会長の松原トキエ様は、「五穀豊穡や家内安全、交通安全を祈願しながらしめ縄を作ってください。」とあいさつをされた。また、代表生徒が、「楽しらしめ縄を作ることができました。このしめ縄は家に飾りたいと思えます。」とお礼の言葉を述べた。



3 取組の成果と課題 (○:成果 ●:課題)

○ 地域の方々を中心とした専門的な知見をもつ人材との連携・協働した多様な取組を推進することができた。当日の活動の前後では、地域の方々と情報交換を図ることもでき、地域の方々の学校に対する思いや地域の課題等を知ることができた。

● 新型コロナウイルス感染症対策として、計画どおりの実施が難しく中止とした取組があった。

4 課題解決の方策、今後の方向性など

○ 本年度中止とした取組を中心に、次年度の新型コロナウイルス感染症への対応等を十分に検討しておく必要がある。生徒たちや参加者の安全を第一とし、感染症対策の徹底を図った上で、規模縮小（時間短縮）や実施時期の変更、教育的目的の合致した別の取組（行事）への代替えなども視野に入れながら教育課程の再編成にも努めていきたい。



## 令和3年度 地域学校協働活動等取材一覧(分野別)

※1月までに KSSVC事務局が取材した活動を分野別に掲載(各分野の掲載順は取材順)

### 教科等支援

	学校等名	活動名	協働者・協働団体等
1	永久津小	図書館オリエンテーション	小林市立図書館
2	南 小	オリンピック集会	福留さん(聖火ランナー)
3	細野中	図書館オリエンテーション	小林市立図書館
4	紙屋小	ボランティア対面式	学校支援ボランティア
5	野尻小	図書館オリエンテーション	小林市立図書館
6	栗須小	図書館オリエンテーション	小林市立図書館
7	野尻小	ボランティア集会	地域住民
8	三松小	1・5年 図書館オリエンテーション	小林市立図書館
9	南 小	6年 校区内史跡巡り	小林ガイドボランティア協会
10	西小林中	2年 さつまいもの苗植え	地域住民
11	紙屋小	5・6年 プール清掃	消防団
12	西小林小	4年 清掃工場見学	NPO法人「赤とんぼ」
13	南 小	3年「小林おうえん団」	商工観光課
14	小林小	3年「小林おうえん団」	商工観光課
15	三松小	6年 市庁舎見学	市役所職員
16	紙屋中	3年 手話講座	福本さん他2名(野尻手話サークル)
17	栗須小	6年 プール清掃	地域の消防団員12名
18	幸ヶ丘小	3・4年 すき特産見学	平川さん(すき特産)
19	幸ヶ丘小	プール開き	市営プール
20	永久津小	6年 市庁舎見学	管財課・議会事務局
21	南 小	3年 ミヤザキ九州工場見学	施設職員
22	永久津小	4年 九州北清・清掃工場見学	施設職員
23	東方小	6年 二原遺跡見学	小林ガイドボランティア協会
24	東方小	3年 すき特産見学	平川さん(すき特産)
25	東方小	4年 清掃工場見学	谷村さん(赤とんぼ)
26	三松小	2年 淡水魚水族館見学	出の山淡水魚水族館
27	三松小	4年 岩戸神楽の学習	井上さん(社会教育課)
28	永久津小	6年 えびの市歴史民俗資料館	中野さん(学芸員)
29	西小林小	3年 校区内史跡巡り	小林ガイドボランティア協会
30	東方小	4年 妙見浄水場・北部配水池見学	上下水道局
31	西小林小	3年 手話の学習	木の実会
32	東方小	6年 二原遺跡のオンライン授業	谷口さん(埋蔵文化財センター)
33	西小林小	5年 手話の学習	木の実会
34	東方小	3年 地域の特産品をPR	平川さん(すき特産)
35	西小林中	3年 手話教室	木の実会
36	須木中	3年 手話の学習	木の実会
37	細野小	1・2年 鑑賞教室ワークショップ	演劇集団「遊玄社」
38	小林中	3年 手話講座	木の実会
39	細野中	1年 美しい町小林学習会	吉丸さんご兄弟
40	紙屋小	3年 手話の学習	圖師さん(野尻手話サークル)

	学校等名	活動名	協働者・協働団体等
41	須木小	3年 手話の学習	木の実会
42	細野小	3年 手話の学習	木の実会
43	細野小	5年 手話の学習	木の実会
44	須木小	3年 校外学習(すき特産)	平川さん(すき特産)
45	南小	消防署見学(オンライン)	消防署職員
46	野尻小	鑑賞教室(フルート演奏)	熊谷さん(フルート) 野崎さん(ピアノ)
47	細野小	鑑賞教室(音楽劇)	演劇集団「遊玄社」
48	東方小	6年 租税教室	市役所税務課職員
49	三松小	1年 校外学習	のじりこぴあ
50	西小林中	小1・中3 交流学习	西小林小・幸ヶ丘小
51	永久津中	手話講座	徳永さん・真方さん(木の実会)
52	三松小	2年 東方学校給食センター見学	センター職員
53	細野中	3年 手話講座	木の実会
54	細野小	3年 昔の道具体験	社会教育課職員・ガイドボランティア
55	細野小	3年 霧島岑神社見学	ガイドボランティア
56	野尻小	2年 野尻給食センター見学	京保さん(所長)・日高さん(栄養士)
57	三松小	4年 郷土を開く(研究授業)	井上さん(社会教育課)
58	小林小	体育サポーターの授業	柳橋さん
59	小林中	1年 リコーダー講習会	増永奏さん(東京リコーダー協会)
60	南小	6年 租税教室	法人会
61	三松小	みまつ会議	自校方式
62	東方小	1年 支援学校とのふれあい交流会	支援学校児童
63	幸ヶ丘小	かおる幼稚園との交流	幼稚園児
64	西小林小	2年 図書館見学	図書館職員
65	西小林中	3年 未来予想図発表会	市職員・まちづくり株式会社他
66	西小林中	1年 郷土料理教室	地域住民
67	須木中	厄払い記念コンサート	専修大学玉名高等学校Ventures
68	三松小	4年 校区内文化財の授業	井上さん(社会教育課)

## キャリア教育・進路指導

1	須木中	3年 オンライン講演会	丸尾さん(経営者:バリ島在住)
2	須木中	ドリームジャンボ学園開校式	飛田さん(元県教育長)
3	三松中	3年 社会人の声を聞く会	7職種11名
4	西小林中	2年 職業講話	4職種4名
5	細野中	3年 キャリア教育講演会・対話集会	水永さん(県キャリア教育TC)
6	小林中	2年 職業講話	16職種の講師
7	須木中	ドリームジャンボ学園(CAさんのお話)	外山さん(地方創生課)
8	小林高校	1年 キャリア学習	トヨタカローラ宮崎
9	須木中	ドリームジャンボ学園(リモート講演会)	成澤さん:視覚障がい者
10	須木小	4~6年 土木の日	小林土木事務所・建設業協会他
11	西小林中	3年 ライフプラン講座	日本生命保険相互会社
12	三松中	1年 13歳のハローワーク	10職種の社会人
13	三松中	3年 面接指導	退職校長会
14	細野中	3年 面接指導	退職校長会

	学校等名	活動名	協働者・協働団体等
--	------	-----	-----------

### 福祉体験学習

1	西小林中	3年 福祉体験学習	社会福祉協議会
2	東方中	1年 福祉体験学習	東方保育園
3	永久津小	3年 福祉体験学習	社会福祉協議会
4	小林小	4年 福祉体験活動	社会福祉協議会

### 安全教育

1	紙屋中	交通安全教室	自校方式
2	須木小	交通安全教室	小林警察署・交通安全協会
3	西小林中	交通安全教室	自校方式
4	三松中	交通安全教室	小林警察署・交通安全協会
5	細野小	交通安全教室	小林警察署・交通安全協会
6	須木中	交通安全教室	小林警察署・交通安全協会
7	東方中	交通安全教室	小林警察署・交通安全協会
8	野尻小	交通安全教室	小林警察署・交通安全協会
9	三松小	交通安全教室	小林警察署・交通安全協会
10	野尻中	交通安全教室	小林警察署・交通安全協会
11	東方中	避難訓練(こすもす支援学校と合同)	自衛隊小林地域事務所
12	野尻中	不審者対応訓練	小林警察署
13	幸ヶ丘小	不審者対応訓練	自校方式
14	西小林小	交通安全教室	小林警察署・交通安全協会
15	須木小	不審者侵入避難訓練	自校方式
16	野尻中	風水害避難訓練	幼保小中合同
17	野尻中	避難訓練(火災)	野尻分遣所
18	栗須小	みかんやまスマイルフェスタ	西諸消防本部・消防団他
19	須木小	避難訓練(火災)	須木分遣所

### 生徒指導

1	紙屋中	新入生歓迎会	自校方式
2	紙屋中	薬物乱用防止教室	小林警察署
3	西小林中	薬物乱用防止教室	松山さん(学校薬剤師:こすもす薬局)
4	細野小	4年 非行防止教室	都城警察署少年補導職員
5	小林中	薬物乱用防止教室	山口さん(小林保健所薬剤師)
6	三松小	6年 スマホ安全教室	本田さん(ドコモ小林店店長)
7	野尻中	情報モラル教室	松田さん(メディアアドバイザー)
8	須木中	薬物乱用防止教室	松山さん(学校薬剤師:こすもす薬局)
9	細野中	SNS情報安全教室	本田さん(ドコモ小林店店長)
10	東方中	西諸県生徒会サミット	飯野中・須木中・高原中
11	野尻中	薬物乱用防止教室	小林警察署
12	小林中	3年 礼法についての講話	日高さん(ホテルマリックス)
13	須木小	5・6年 非行防止教室	都城警察署少年補導職員

### 人権教育

1	小林中	2年 いのちの授業	中山さん(臓器移植ネットワーク)
2	須木中	1年 命の学習	吉鶴さん(助産師:市健康推進課)
3	細野小	人権教室	人権擁護委員

	学校等名	活動名	協働者・協働団体等
4	須木小	人権教室	人権擁護委員
5	細野小	4年 いのちの授業	みやざき動物愛護センター
6	東方中	人権教育講演会(リモート)	浦田理恵さん(パラリンピックメダリスト)
7	小林中	3年 性についての講話	串間直紘さん(Human Activist)

## 農業体験・森林学習

1	野尻小	さつまいもの苗植え	地域住民
2	幸ヶ丘小	さつまいもの苗植え・梅ちぎり	地域住民
3	紙屋小	小5・中学生 合同田植え	JAこばやし青年部他
4	紙屋小	1～3年 さつまいもの苗植え	JAこばやし青年部他
5	西小林小	5. 6年 田植え	JAこばやし青年部他
6	栗須小	4年 緑の少年団結団式	農業振興課
7	野尻小	3年 田植え	営農組合・JAこばやし
8	細野小	5年 田植え	まちづくり協議会・JAこばやし青年部
9	永久津中	小中合同(5年・中学生) 田植え	営農組合・JAこばやし
10	細野小	4年 そばの種まき	営農組合・JAこばやし
11	永久津小	小6・中1 そばの種まき	営農組合・JAこばやし
12	永久津中	1・2年 いもの収穫	地域住民
13	永久津小	1・2年 いもほり	地域コーディネーター
14	幸ヶ丘小	いもほり	自校方式
15	紙屋小中	合同稲刈り(小学5年・中学生)	保護者・地域住民
16	野尻小	1・2年 いもほり	営農組合・JAこばやし
17	野尻小	3年 稲刈り	営農組合・JAこばやし・美土里ネット
18	西小林小	5・6年 稲刈り	営農組合・JAこばやし
19	細野小	5年 稲刈り	JAこばやし青年部・まちづくり協議会
20	永久津中	小中合同(5年・中学生) 稲刈り	営農組合
21	栗須小	稲刈り	みかんやまスマイル会議など7団体
22	細野小	4年 そばの収穫	営農組合・JAこばやし
23	紙屋小	1～3年 いもほり	営農組合・JAこばやし
24	小林中	農業体験活動	北きりしま田舎物語
25	栗須小	4年 みどりの啓発活動(募金活動)	市内のスーパー・野尻庁舎等
26	野尻小	1～3年 収穫感謝集会	営農組合・JAこばやし

## 食育

1	須木中	シェフのこばやし食育教室	地井さん(Kokoya de kobayashi)
2	永久津小	6年 シェフのこばやし食育教室(オンライン)	地井さん(Kokoya de kobayashi)
3	永久津小	3年 味覚の授業	地井さん(Kokoya de kobayashi)
4	南小	シェフのこばやし食育教室	地井シェフ・地方創生課
5	小林小	味覚の授業	地井シェフ・地方創生課
6	東方小	6年 シェフのこばやし食育教室(オンライン)	地井シェフ・地方創生課
7	永久津中	園児・小6・中1 そば打ち	倉菌さん・JAこばやし
8	紙屋小	給食感謝集会	日高さん(野尻給食センター栄養士)
9	野尻小	給食感謝集会	日高さん(野尻給食センター栄養士)
10	紙屋小	6年 シェフのこばやし食育教室(オンライン)	地井シェフ・地方創生課

	学校等名	活動名	協働者・協働団体等
--	------	-----	-----------

## 平和学習

1	須木中	戦争語り部講話	桂木さん・県遺族連合会
2	小林中	平和学習	桂木さん・県遺族連合会

## 伝統芸能

1	野尻小	5年 棒踊りの授業	棒踊り保存会
2	紙屋小	4年 城攻め踊りの講話	手塚さん(保存会会長)
3	野尻小	5・6年 棒踊り練習	棒踊り保存会
4	紙屋小	4～6年 城攻め踊りの練習	保存会
5	小林小	4年 兵児踊りの練習	保存会
6	東方小	小5・6・中学生 輪太鼓踊りの練習	保存会
7	幸ヶ丘小	太鼓の練習	今村さん(響座)
8	三松中	2年 岩戸神楽の練習	保存会
9	三松中	2年 岩戸神楽の練習	保存会・篠笛演奏家
10	三松中	岩戸神楽(文化発表会)	保存会
11	紙屋中	1年 城攻め踊り(文化発表会)	保存会
12	小林中	日本伝統を守る会「学校寄席」	柳亭燕路さん・丸一仙三さん
13	須木小	鑑賞教室「能楽」	能楽師

## 世代間交流

1	紙屋小	1・2年 セタづくり	紙屋いきいきサロン
2	紙屋中	1年 スマホ教室の支援(生きがい学級)	ドコモショップ小林店
3	幸ヶ丘小	幸っ子フェスタ「世代間交流学習」	保護者・地域住民
4	須木中	しめ縄づくり	地域住民

## ものづくり体験

1	三松小	6年 ものづくり教室	ものづくりマイスター
2	紙屋中	1年 陶芸教室	園田さん(園田陶苑)
3	須木中	1・2年 ものづくり体験学習	豊技能士(ものづくりマイスター)
4	野尻小	5・6年 ものづくり体験教室	ものづくりマイスター(技能士)

## 国際交流・国際理解

1	幸ヶ丘小	国際交流学習	トニーさん(国際交流員)
2	西小林小	3・4年 国際理解学習	トニーさん(国際交流員)
3	西小林中	3年 国際理解講座	宮崎県国際交流員
4	野尻小	4年 国際交流学習(オンライン)	野田さん・ネパールの小学生
5	西小林小	国際交流員との交流授業	トニーさん(国際交流員)

## 合同学習

1	幸ヶ丘小	5・6年 西小林小との交流学習	両校職員
2	西小林小	1. 2年 幸ヶ丘小との交流学習	両校職員
3	細野中	中1・小6 哲学対話	細野小6年生

## ボランティア活動

1	東方小	河川清掃・魚の放流	漁業協同組合
2	三松中	1年 花壇植栽活動	小林土木事務所・造園業者
3	紙屋中	1・3年 高妻神社清掃ボランティア	高妻神社宮司
4	須木中	暮らしの困り事助け隊	社会福祉協議会須木支所・地域住民

	学校等名	活動名	協働者・協働団体等
--	------	-----	-----------

### 読み聞かせ

1	須木小	読み聞かせ	あすなろ会・小林図書館須木分館
2	東方小	読み聞かせ	よんみろ会
3	三松中	読み聞かせ	読み聞かせサークル
4	小林中	1・2年 読み聞かせ	小林子ども遊学会
5	須木中	1・2年 読み聞かせ	あすなろ会・小林図書館須木分館
6	小林小	1～3年 読み聞かせ	くすの木文庫
7	細野中	1・2年 読み聞かせ	ママーズ
8	紙屋中	1・2年 読み聞かせ	大浦さん(たんぼぼ)
9	西小林小	1・2年 読み聞かせ	西小林中学校
10	幸ヶ丘小	1・2年 読み聞かせ	西小林中学校

### まちづくり協議会

1	細野小	灯ろうづくり(霧島岑神社六月燈)	細野まちづくり協議会
---	-----	------------------	------------

### 職員研修、小中連携、その他

1	須木小	職員研修「須木発見ツアー」	地域の教育資源(自校方式)
2	栗須小	PTAプール開放	保護者
3	東方小	夜の学校探検	PTA家庭教育学級
4	小林高校	中学生学習会	小林高校教諭

### 事務局

1	市教委	「協働の学校づくり」推進協議会	遠藤さん(宮崎大学准教授)
2	県教委	地域と学校の「絆」推進委員会	リモート講演会(熊谷さん:岡山大学)
3	県教委	地域学校協働活動推進員等研修会	大久保さん:日本ボランティア学習協会



保育園・小・中合同そば打ち



こばやしスクールサポートボランティアセンター(KSSVC)

〒886-0004

小林市細野 38 番地 1 (社会教育課内)

TEL 0984-22-7912

FAX 0984-23-9700